

# 大麦管理情報 (第3号)

令和7年12月2日  
農業技術課広域普及指導センター

## 1 気象経過

### (1) 気温

平均気温は、平年に比べ、11月中旬が10.5℃（平年差-0.5℃）と並、11月下旬が11.0℃（同+1.6℃）とかなり高かった（図1）。

### (2) 降水量

降水量は、平年に比べ、11月中旬が19.5mm（平年比23%）とかなり少なく、11月下旬が55.0mm（同71%）と少なかった（図2）。

### (3) 全天日射量

平均全天日射量は、平年に比べ、11月中旬が9.5MJ/m<sup>2</sup>/日（平年比146%）とかなり多く、11月下旬が7.2MJ/m<sup>2</sup>/日（同118%）と多かった。

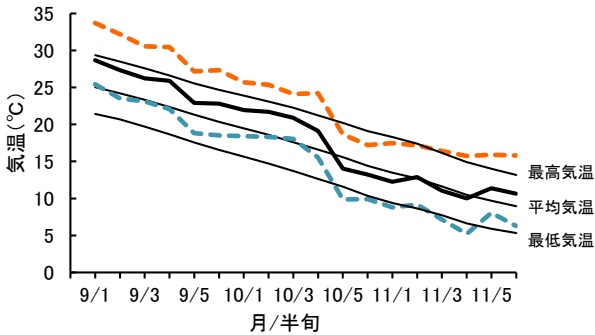


図1 気温の推移（富山地方気象台）

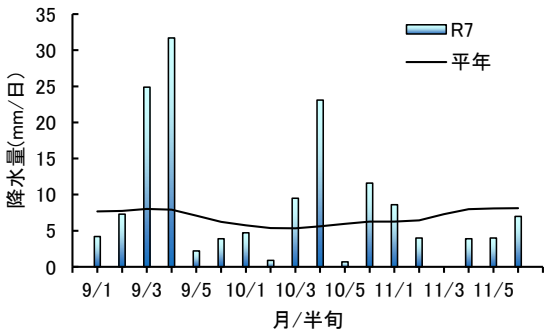


図2 降水量の推移（富山地方気象台）

## 2 生育概況

- ・平年に比べ、草丈は短く（平年比84%）、茎数はやや少なく（同比91%）、葉齢（同差+0.1）及び葉色（SPAD、同差+0.1）は並となっている（表1、図3・4）。
- ・10月中旬から11月上旬に降水量が多かったことから、茎数がかなり少ないほ場もみられる。

表1 大麦の生育状況（12月1日）

| 年産  | 播種期<br>(月/日) | 苗立数<br>(本/m <sup>2</sup> ) | 草丈<br>(cm) | 茎数    |                     | 葉齢<br>(葉) | 葉色<br>(SPAD) |
|-----|--------------|----------------------------|------------|-------|---------------------|-----------|--------------|
|     |              |                            |            | (本/株) | (本/m <sup>2</sup> ) |           |              |
| 8年産 | 10/6         | 145                        | 24.2       | 4.3   | 633                 | 6.6       | 38.6         |
| 7年産 | 10/2         | 169                        | 33.3       | 3.8   | 648                 | 7.5       | 34.1         |
| 平年  | 10/6         | 174                        | 28.9       | 4.0   | 699                 | 6.5       | 38.5         |

注1) 調査ほ場数：10、播種様式はすべてドリル播き

注2) 8年産の値は10月下旬播種を除いた平均、平年はH28～R7年産の平均、図3・4も同様

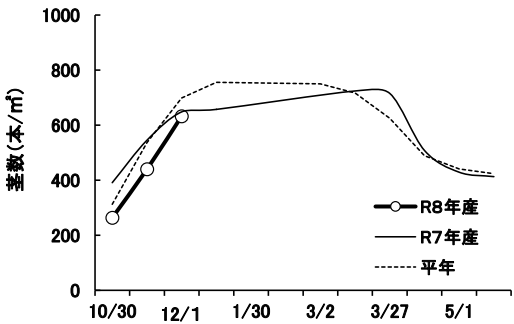


図3 茎数の推移

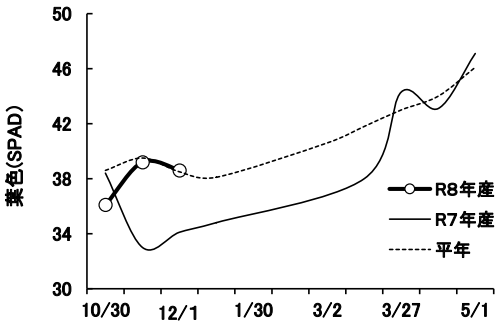


図4 葉色の推移

### 3 当面の技術対策

#### (1) 排水対策の徹底

- ・葉色が淡い、茎数が少ないほ場が一部で見られる等、平年に比べ生育量が確保できていない。
- ・越冬前に目標茎数（600～800本/m<sup>2</sup>）を確保するため、降雪前に排水溝の手直しを行うとともに深く掘り下げた排水口への連結を徹底する。
- ・特に、播種が10月下旬以降と遅いほ場は、根の伸長を促進するため、排水対策を徹底する。

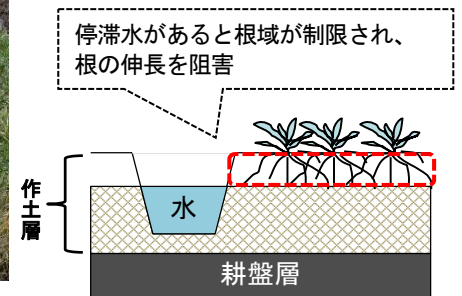
【排水不良のほ場】 溝に水がたまっている・葉の黄化



溝が連結されていない



溝が埋まっている



排水溝の高い部分や埋まりを取り除き、排水口へ連結する



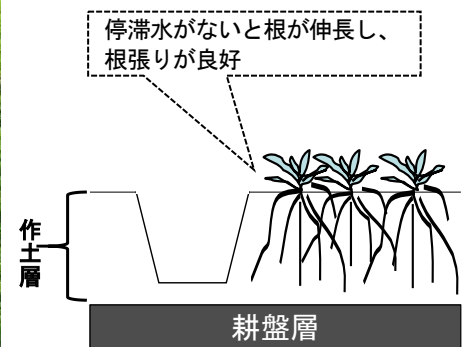
排水口へ



排水口

【排水良好のほ場】

ほ場内に停滞水がない



#### (2) 年内追肥

##### 【肥効調節型体系】

基肥量が基準より少ない等で極端に葉色が淡くなった場合を除き、年内追肥は原則実施しない。

##### 【分施肥系】

年内追肥は原則として、播種後1か月頃の1回のみとするが、12月初めの生育が茎数500本/m<sup>2</sup>以下、かつ、葉色がSPAD値で30以下のほ場では、窒素成分で2kg/10aの追肥を施用する。